

—— 伝統工芸の名匠 ——

文部省選定
優秀映画鑑賞会推薦

箆^{おき}打ちに生きる

小川善三郎・献上博多織



献上博多織の特長

1. 献上博多織は平地組織を基本とする。
2. 平地の上に浮糸を吊り上げて浮かし、その下を緯糸が通って浮文様を織り出す。浮文様はもちろん独鈷と華皿を組み合わせ、これに縞を配した定格のものに限られる。
3. 経糸の密度が極めて高く、これに均衡するため緯糸も太目の糸を、合わせ引き揃えて織り込む。
4. 厚地で強靱な織物である。
5. 絹鳴の特長がある。
6. 織り上がりの巾は、鯨尺で8寸、長さは1丈1尺が標準である。

この映画は人間国宝・小川善三郎が、献上博多織の定格に固執し、伝統の血をひたすら織りつづける姿を通して、伝統とは何かを考え、感じさせる作品である。

福岡市博多区の中心街から南西に約6キロ、郊外の閑静な環境に小川さんの工房がある。工房では、いま新しい献上博多織の帯地の織り出しが始められた。トン・トン・トン、そして瞬間の間をおいてダーンと轟音がなって、緯糸1枚の打ち込みとなる。「3つ打ち、打ち返し」と言われる独特の技法だ。

「献上がわたしに憑いてるのか、わたしが献上についてるのか…。とにかく、これを織りつづけるのがわたしの一生です。」と小川さんは控え目に言う。永い歴史の中では、博多織も時代の流行にそってさまざまな模様が織られてきた。しかし、小川さんは、独鈷、華皿の献上模様しか織らない。そこには、ずっと昔からの博多人の献上博多織に対する愛着が息づいているのである。

小川さんは、代々博多織を業とする家に生まれ、箠打ちの音を子守唄に育った。「織織りのリズムはなかなか口で教えられるものではないし、手をとって教えることも殆んどしない。人が織っているのをよく見て、自分で体得するのです。」小学校を出るとすぐ織物工場に入門し、そこでの修業はとても辛かったと言う。「技は辛抱から生れる」これが小川さんの信念でもある。糸調べから箠通しまで約10日間に及ぶ細かな準備工程を経る。まさに技は一つ一つの積み重ねと、地みちな努力の結果、はじめて得られるのである。

小川さんは、すぐれた作品のことを「気合いの籠った帯」と呼ぶ。織目の一つ一つに織った人の真剣勝負に立ち向かっている緊張感と気合いが見えるのであろう。

8世紀の間、博多の人びとによって育まれてきた献上博多織。小川さんは伝統と技を守りながら、その歴史を織ったのである。

智恵と工夫の結実

北村 哲郎

(共立女子大学教授)

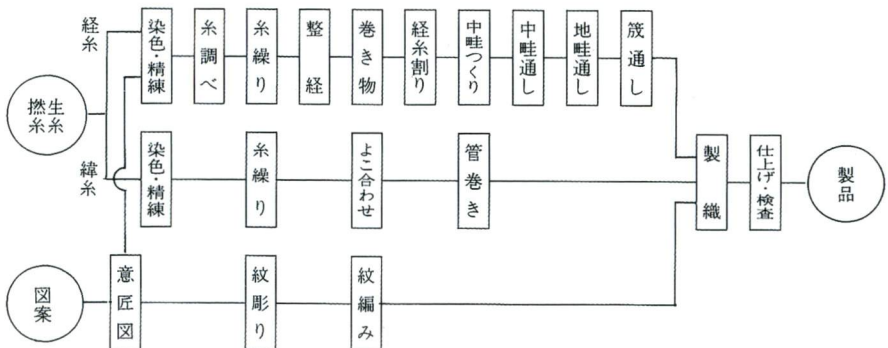
織物は女性の仕事と思いきんでおられる方が、けっこうおありのようですが、高度な技術や習練を要する紋織物や博多や仙台平・大島紬の緯機のように、力のいる機織りは昔から男の仕事とされてきました。特に博多は単帯のしっかりした地合を作るために、緯糸の打ち込みには強い力が必要で、男でなければ出来ない仕事でした。この打ち込みが博多独特の「三つ打ち、打ち返し」です。通常の織物ではトン・トンと2度箠打ちするのが普通ですが、博多ではトン・トン・トンと3度箠打ちをした後、もう1度カー一杯ダーンと箠を打ち込みます。この力強い緯打ちのリズムは献上博多織特有のものです。

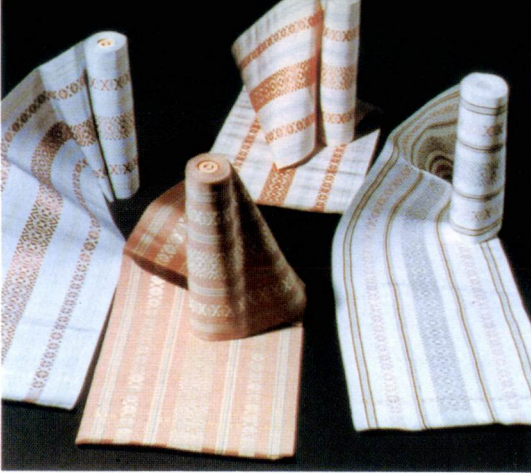
小川善三郎さんの工房にうかがうと4台の機が工房を一杯に占めているのに、まず驚かされます。西陣あたりの紋織機に比べても、更に大きく、特に縦の長さが長いのです。これは経糸の張力を強くする必要があるからで、博多帯の固い地合を作るには、強く張った経糸に緯糸を強く打ち込まなければならないからです。緯打ちの特色と共に、この機の構造も献上博多織独特のものです。

もう一つ小川さんの工房で気がつくのは、工房の床が土間となっていることです。1台か2台の手機で家内工業として帯などを織っているところでは、まだまだ土間に機を据えている処が沢山あり、決して珍しいというわけではありませんが、小川さんの場合は、板の床にしようと思えば、いくらでも出来るのに、かたくなに土間の床を守り続けておられます。それは機にかけた絹糸が常に適度な湿気を含んでいる必要があるからで、乾燥の続いた日には土間に水をまいて、常に一定の湿度を保つようにするためです。これも経糸に強い張力を与える必要から生まれたことで、乾燥すると糸が切れやすくなるからです。

伝統工芸の仕事は、こうしたさまざまな智恵と工夫の結実であることを、小川さんの献上博多織はよく物語っているといえましょう。

献上博多織製造工程





作 品 名・シリーズ —伝統工芸の名匠—

箒打おほちに生きる

「小川善三郎・献上博多織」

(35ミリ・カラー・33分)

企 画・財団法人ポーラ伝統文化振興財団

製 作・岩波映画製作所

製作スタッフ・プロデューサー・六鹿英雄、下村雅彦、田村 恵

脚本・監督・神馬玄佐雄

撮 影・成瀬慎一、立石桂介 照 明・江森源二

編 集・神馬玄佐雄 音 響・末村萌律喬

作 曲・鈴木行一 ナレーター・小松方正

協 力・文化庁文化財保護部

博多織工業組合

福岡県文化会館

福岡市美術館

承天禪寺

株式会社 松居

松居織物博多織工場

Pola Foundation for the Promotion of Traditional Japanese Culture

公益財団法人 **ポーラ伝統文化振興財団**

<http://www.polaculture.or.jp>

〒141-0031 東京都品川区西五反田 2-2-10 ポーラ第2五反田ビル

TEL.03-3494-7653 FAX.03-3494-7597